

学会トピックス

第19回アメリカアフェレシス学会 (ASFA) 印象記

末岡 明 伯

ベイラー医科大学

アメリカアフェレシス学会 (ASFA) は、日本アフェレシス学会 (プラスマフェレシス治療研究会) とほぼ同時期に設立され、学会員は今年千人を超えたと報告された。学会員の構成は約50%がnurse (血液センターのRNが主) からなり、学会長 (President, 1年任期で年次大会まで) は、現学会長 W. Koetz, RN, HP, をはじめ、歴代15人中4人がRNから選ばれている。また、年次大会の参加者も毎年nurseが半分以上を占め、Allied Health (para-medical) のセッションが充実している。

ASFA 年次大会は、5月14日から16日までFloridaのTampa Bayに近いSt. Pete BeachにあるTrade Winds Resort hotelで開催された。St. Pete Beachはメキシコ湾に面したフロリダの避暑地の一つで、まだ1カ月程最盛期には早い時期ではあったが、非常に良い天候続きであったこともあり、すでに多くの避暑客がFloridaの「夏」を楽しんでいた。

大会には、今年度の学会長にすでに選任されているJames Smith, MD, PhDがChairperson (大会長) となり約500人が参加した。アメリカ以外では、小人数ながらカナダ、ドイツ、フランス、イギリス、イタリア、スペイン、ブラジル、アルゼンチン等からの参加者がいたが、日本からの参加はなかった。

シンポジウム3件、Allied Health セッション5件、一般演題70件があった。例年はアフェレシスの「輸血」及び「治療」分野の内、シンポジウム及び一般演題共に輸血関連が中心になっていた傾向があったが、今年は治療関連がむしろ中心になっていた。

シンポジウムの一つはTTPに関するセッションで「TTP-Current Therapeutic Experience」と「TTP-Pathophysiology」の2つのサブセッションにわけ、患者・アフェレシス治療の現状、病因・治療法、特に置換液の影響、について発表及び討議が行わ

れた。

2件目は、「Quality Symposium」のタイトルで、アフェレシスの器具装置及びDonorから得られた血液成分 (stem cell, 血小板等) 自身の品質管理、安全性、有効性等について討議が行われた。これらは、実際にアフェレシスを施行している現場では重要であるにもかかわらず、学会レベルでは今までほとんど取り上げられなかったテーマで、日本でも今後検討が必要なテーマと感じられた。

3件目は、「Therapeutic Apheresis-Issues and Updates」のテーマで、治療用アフェレシスについて、赤血球交換及びphotopheresisの2つの方法に焦点を合わせ最新の状況が紹介された。赤血球交換については、最近赤血球交換専用の装置 (遠心分離器) が開発され、その適応拡大が進められており、従来からの鎌状赤血球症、多血症、に加え寄生虫血症 (マラリア等)、肝移植等に検討が行われている。また、このセッションの最後に保険 (reimbursement) に関する発表があった。アメリカの医療保険は民間保険が中心で、reimbursementが保険会社によりコントロールされていることへの不満、問題点が指摘された。

Allied Health セッションについて、アメリカでは「Hemapheresis Practitioner (HP, ヘマフェレシス士; American Society for Clinical Practitioner が認定)」の資格があり、ASFAは資格取得のサポートをしており、そのための2つのセッション (講義) があった。「The basics-Donors」, 「The basics-Therapeutics」。その他、「Venous Access/Patient Education and Apheresis Careplanning」, 「Advanced Therapeutic Apheresis」, 「Advanced Donor Pheresis」のタイトルで、アフェレシスの施行に際しての実際的な教育講演を中心としたセッションがあった。

一般演題は、1) Plenary session, 2) Cytopheresis Topics, 3) Management and Administrative Topics, 4) Therapeutic Apheresis I, 5) TTP: Diagnosis and Treatment, 6) Platelet Collection, 7) Observations and Investigations, 8) Therapeutic Apheresis II の各セッションで計 70 件 (全て口頭) の発表があった。以下、Therapeutic Apheresis 関係を中心に、日本ではあまり行われていない興味ある研究発表を中心に紹介する。

「大腸菌 O-157 による食中毒に対する血漿交換」(A.E. Morrison ら, イギリス); 19 人中 2 人が死亡, 4 人が透析で血漿交換は有効な方法と報告。

「免疫吸着剤—Prosorba」(A. Pineda ら); Prosorba (プロテイン—A 吸着カラム) を用いた重症慢性関節リウマチに対する多施設、コントロール治療が行われている。Placebo (sham) は遠心分離器で血漿分離し、再び血球・血漿を合わせて戻す方法で行われている。効果は、33% (Prosorba 群) vs 9% (sham 群) で有為に効果があると報告している。FDA への申請を計画中とのことで、アメリカで慢性関節リウマチに対しアフエレシスが認可されるか否か、非常に興味をもたれる (現在、ITP に認可されている)。

photopheresis の演題が 2 題、「GVHD の治療」(N. Nazari ら), 「photopheresis の副作用」(I. Sniecinski ら) があった。photopheresis は、日本ではほとんど使用されていないが、アメリカでは移植後の拒絶反応等に対し、広く使用されているようである。

赤血球交換に関する演題が 3 題、「マラリア」(T.

Boyd ら), 「鎌状赤血球症」(L. Clough ら), 「ABO 不適合肝移植」(E. Klapper ら) への応用例が報告された。

心臓関連疾患に対するアフエレシスの応用として、高値の anti-HLA antibody をもった人工心臓及び生体心臓移植患者に血漿交換を施行 (D. Eklund ら), 凝固系 (VII 因子) 異常の人工心臓移植患者に血漿交換を施行 (A. Bracey ら) が報告された。

日本とアメリカでは、適応疾患や用いられている機器の違いもあって、アメリカでは血液疾患、神経疾患が多いのに対し、日本で多い高脂血症、肝不全、慢性関節リウマチ等の報告がほとんどなかった。

輸血関係では、例年通り血小板、stem cell に関する発表が中心だったが、今回は赤血球採取の報告も多く、赤血球採取が普及しつつあると感じられた。遠心分離器の各メーカーの展示でも赤血球採取装置を中心に PR しているメーカーが多かった。

日本とアメリカのアフエレシス学会は、ほぼ同時期に設立されたが、その歴史的、医療環境等の相違から内容がかなり違って来ている。ASFA は、アフエレシス療法自身に注力し、治療、操作マニュアル (学会製作ビデオが販売されている)、教育等、実際のアフエレシス療法に必要なシステムが、旨く出来ているように感じられる。一方、日本に比べ、FDA の問題から使用されている機器、特に膜、吸着剤等は限定されており、主となる治療対象適応疾患に違いがある。これら両学会の長所を取り入れるため、今後両者の交流がもっとあっても良いのではないかと感じられた。